

綿カッターを50℃以上の温度で洗うと、オーダーカッター等でよく衿と前立て及びカフスの芯地に縮みが起こります。それを簡単に修復できます。

実用新案申請中



仕上げ前後に関わらず、女性パートさんでも短時間で作業できます。



【衿】
衿を裏返すと、このように縮みが発生しています。
(現寸法38.4cm)



【前立て】
手でいくら引っ張ってもヒューズ芯は伸びません。



衿を両方ともクランプにはさみ、後方部品を引き、スプリングを伸ばします。



ボタンとボタンホールを合わせ、クランプにはさみます。



蒸気を出しながら1回往復させます。



蒸気を出しながら1回往復させます。



元の寸法に戻りました。
(修正寸法41.3cm)
プレス前で約3cm、プレス後で約1cm強伸びます。



両方の寸法が合いました。

クランプ部分のはさみ樹脂やバネは消耗品です。ゆるくなった場合、部品の交換が必要となります。予めご了承ください。

衿・前立て・カフス縮みのクレームが一発解消。



株式会社 匠システム

TEL.06-7500-7501
住所.大阪市阿倍野区桃ヶ池町1丁目11-6

◎詳しくは、ホームページをご覧ください。

匠システム 溶剤

検索

さらに、Xノビールならワイシャツの「カフス」はもちろん経験のない方でも、仕上げが難しい「足袋」を簡単に早く仕上げることができます。

足袋はプレス機では十分に仕上げることができません。手仕上げこそが足袋の品質です。



カフス仕上げイメージ
※手順は衿/前立てと同じです。

① **【足袋】**
生乾きの状態、もしくは霧を吹き、しめじ込みをします。

② 足袋を裏に向け、つま先とかかと部分を左図のようにクランプに挟みます。

③ 蒸気アイロンで伸ばします。

④ 小鉤(こはせ)を左図のように折ります。

⑤ 小鉤部分とつま先を挟み込みます。

⑥ 蒸気アイロンで仕上げます。

⑦ かかとのクランプを外して反対側面を挟み込みアイロンで仕上げます。

⑧ 乾燥後、アイロン台の上で裏を仕上げます。

⑨ 小鉤の受糸側から仕上げます。

⑩ 裏返し全体を仕上げます。

⑪ つま先を指で挟み折込を入れます。
※折込を入れることにより履きやすくなります。

⑫ 左図のように畳みます。

⑬ もう一足も⑧以降の手順と同様に仕上げます。

⑭ 2つを重ねて紙テープで留めて仕上がりです。

その後、完全に乾くまで自然乾燥または静止乾燥します。



XNobiru